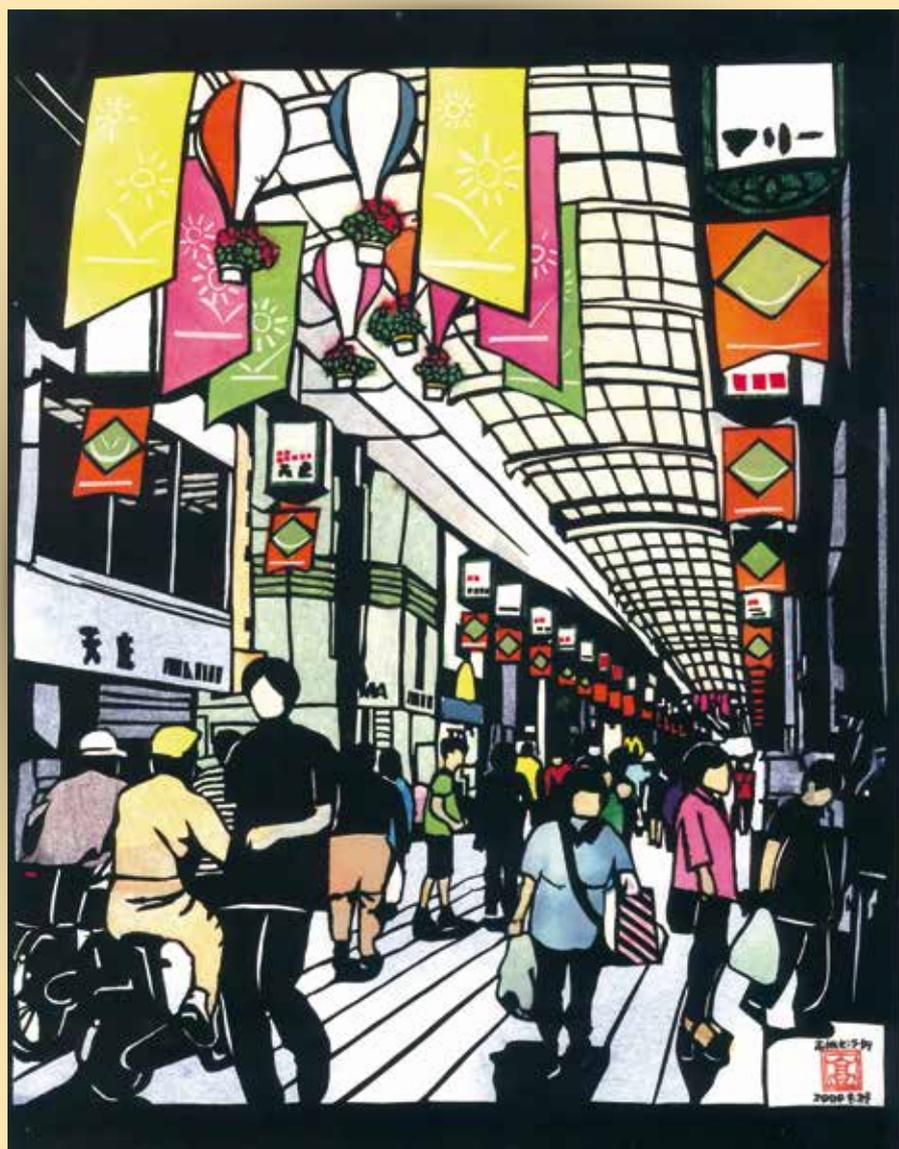




# あくていぶ



わがまちたかつき  
切り絵紀行

「センター街の  
にぎわい」

切り絵 作：生地 高芳(高槻市在住)

## あちこち訪問

うずらの  
鶉野飛行場資料館(兵庫県加西市)

太平洋戦争末期、特攻隊の訓練基地として使用された飛行場跡や防空壕跡が今も残る「鶉野飛行場資料館」が兵庫県加西市にあると聞き、広報チームのメンバーで訪れ、保存会の上谷昭夫さんにお話を伺いました。



▲地下飛行指揮所跡で

うずらの

## 鶉野飛行場資料館

### ～戦後70年の月日を経て、今に残る戦争遺跡群～

#### 鶉野飛行場とは…

鶉野飛行場は、太平洋戦争が激しさを増す中（昭和18年）、優秀なパイロットを養成するために造られた旧日本海軍の飛行場です。広大な鶉野台地に、全長1,200mのコンクリート製滑走路が造られ現在も



面影を残しています。

当時、航空隊には、17歳から25歳までの若者が全国から集められ、飛行訓練などを受けた後、各航空隊へと分かれていきました。

#### 上谷 昭夫さん

郷土戦史研究家。鶉野の戦争遺跡の保存に努める傍ら、200人余りの人たちから、当時の話を聞き取り、真実を後世に伝える活動もされている。

#### 神風特別攻撃隊と平和記念の碑



昭和20年には、練習生による神風特攻隊「白鷺隊」が結成され、終戦までに63名の尊い命が失われた。

滑走路横にある「鶉野平和祈念の碑」（平成11年建立）には、搭乗員63名の名が刻まれていました。

#### 鶉野飛行場資料館

滑走路横にある飛行場資料展示館。当時の鶉野の歴史やパイロット、紫電改などに関する資料が展示されています。



### 感想

貴重な戦争遺跡群が、ほぼそのままの形で残っていた。加西市は、このほどこうした施設を平和学習施設として整備計画を立てているとのこと。ここに至るまでには、お話を聞いた上谷さんの並々な努力と時間があった。「事実を風化させることなく、後世に伝えることが自分の使命」との想いに感銘を受けた。

「お国のために」と様々な思いを胸に飛び立っていった若い尊い命。「平和記念の碑」の説明文の中に、滑走路の突貫工事に精を尽くした朝鮮半島の人々をたたえた「朝鮮の人達の労働により…」の一文に、とりわけ心ひかれた。

「平和記念の碑」横に、戦争中は、戦闘機の整備に使われた運搬道具が置かれていた。戦後、車輪を外し地元小学校の朝礼台として再利用されていたが、老朽化したため、廃棄処分されるところを、譲り受けここに設置されたとのこと。子どもの成長を見つめ、今は静かに平和を見守っている。

## 航空隊飛行科の地下飛行指揮所跡

昭和20年に入り、敵戦闘機の攻撃に備え、防空壕を作りこの場所で指揮をとった。この防空壕の中では、戦闘機の模型や現物の戦闘機のタイヤ、当時の写真などが展示されています。（写真左）

## 海軍最後の戦闘機「紫電改」がここで造られた

かつて、鶴野飛行場の滑走路脇に、川西航空機姫路製作所鶴野組立工場があり、「紫電」や「紫電改」など500機余りの戦闘機が組み立てられ、試験飛行もこの地で行われたとのこと。

## 法華口駅

播州鉄道開設時（1915年）から約100年の歴史を刻む現役の駅。海軍航空隊の入口駅としても栄え、特攻隊員が家族や恋人との最後の別れの場所だったのではないかと考えられています。



その  
2

### コラム Column

## 「だから男と女はすれちがう～ともに楽しく過ごすために～」

高槻市人権まちづくり協会 啓発指導員 野田 忠司

前号では、男性脳と女性脳の「感じ方」や「考え方」の違いについて書きました。あくまでも一般的な傾向について述べています。受けとめ方については、個人差があると思います。ここでは、男と女のすれ違いを減らし、共に楽しく過ごせるにはどうすればいいか、そんなことを、皆さんと一緒に考えていければ幸いです。

今号では、すれ違いを乗り越える方法についてお話しさせていただきます。

### 「相手の気持ちを聞く」こと

ワシントン大学心理学部名誉教授のジョン・M・ゴットマン博士は、「すれ違い」に悩むカップルに対して、「すれ違いを解消する最大の秘訣は、会話を長くすること。そして相手の気持ちを聞くことに集中しなさい」と指摘されています。

女性は、会話を通して相手の感情を知ったり、自分の感情を伝えるなど会話すること自体に目的があるようです。それに対し、男性は、問題解決こそが会話の目的となっており、解決すべき課題がないと会話しない傾向があるようです。

### 相手の気持ちを理解する 努力が欠かせない

男女の違いは、長い狩猟採集時代の遺物ではありますが、無意識のなかに深く根ざしており、日常生活のなかで深刻な影響を与えやすい。男女の違いについて理解し、その違いを意識して、相手の気持ちを理解する努力が欠かせないので。



さまざまな人権にかかわるテーマについて講演します。ご希望があれば人権まちづくり協会（電話：674-7878）までお問い合わせください。

※4月から新しい人権啓発指導員に、高槻市立若松小学校元校長の岩崎律雄さんが就任されました。「一人ひとりの人間を尊び、一人ひとりの個性を大切にする教育」を実践してこられ、学校飼育栽培関係（鶏、アヒル、ウサギなどの動物や野菜）のお話なども。趣味は瓢箪づくり。野田さんともによろしくお願ひします。

2016年 第31回

# 高槻市平和展



～世界へとどけ 平和をつなぐ あたたかいところ～

平成28年度「第31回高槻市平和展（主催：高槻市、企画運営：高槻市人権まちづくり協会）」が8月4日（木）5日（金）の2日間、「世界へとどけ 平和をつなぐ あたたかいところ」をメインテーマに、市生涯学習センターで開催されました。今年の平和展には、昨年を上回る約1,850人が来場され、戦争の悲惨さや平和の大切さなどに思いをはせました。



## 戦争資料など展示

展示ホールでは、当時の様子を写した写真パネルや原寸大のリトルボーイ（広島に投下された原子爆弾）、被爆した石などを展示。特に今年は、日本非核宣言自治体協議会が長崎市で実施した、被爆地から平和を訴える「親子記者新聞」を紹介するコーナーなども設けました。



リトルボーイ前で先生から話を聞く園児たち▲

## 音楽祭

市内で活動されているコーラスグループ8団体が出演し、「愛・いのち・平和」をテーマに開催されました。会場では、「手のひらに太陽を」や「翼をください」など各グループがそれぞれの持ち味を出し熱唱、また会場に来られた参加者と一緒に歌うなどの場面もあり盛り上がりしました。





## ロビーコンサート

高槻市出身でクラシック歌手の松浦祥子さん（写真右）らによるロビーコンサートを開催。約140人の観客を前に、「青い空は」や「花」などの曲を手話も交えながら熱唱し、ロビーの特設会場が熱気に包まれました。



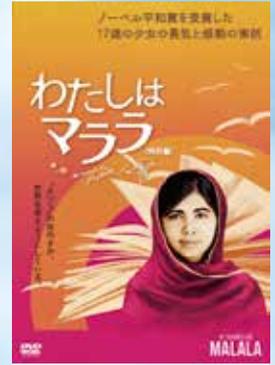
## 特設コーナー

1階の会場入口では、パネル展のほか、オバマ米大統領が広島への平和記念公園を訪れ、所感を述べた映像や声明内容を紹介した特設コーナーも設けられ、核なき世界への思いを新たにしました。



## 映画会「わたしはマララ」

会場の多目的ホール300席を埋め尽くす290人が来場。17歳でノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんの勇気と感動のドキュメンタリー映画の上映に、「感動した」「とても良かった」といった声がたくさん寄せられました。



©2016 Twentieth Century Fox Home Entertainment LLC. All Rights Reserved



## 折り鶴コーナー

会場では、今年も来場者に折り鶴を折って頂くコーナーを設け、たくさんの方に作って頂きました。これらの折り鶴は、単位会などで折られた鶴と合わせ、後日、広島平和記念公園に平和の思いを託し奉納する予定です。



昨年の奉納風景▲



市民の声

平和が当たり前の日本だが、世界ではテロや自爆のニュースで溢れている。ポストターにも書いてあったが、平和の思いが世界中に広がっていった平和を願う声をもっともっと大きくなって欲しい。

(60代)

「わたしはマララ」の映画を子どもと一緒に見に来ました。マララの力強さに感動しました。学校が破壊され、女子は教育など受ける必要がないという主張には腹立たしい。当たり前前に教育が受けられる私達は幸せだと改めて思った。

(40代)

私の友人に被爆された方がいる。会場で語り部の方からも話を聞いた。こんな苦しみ二度と起こらないことを願う。

(70代)

初めて平和展に来ました。ロビーコンサートや音楽祭など工夫を凝らした取り組みが素晴らしい。自然に平和への思いが伝わってくる気がします。

(60代)

核なき世界を願う。

(60代)

# 心の豊かさを求めて



## アルパの音色に乗せて 「お互いを思う心の大切さ」を語る

6月4日、市生涯学習センター2階多目的ホールにおいて「へだたりのない豊かな地域の暮らしを」をテーマに、人権講演会「心の豊かさを求めて」が開催され、181名が参加しました。

当日は、講師の上之山幸代さんが、南米のハーブ「アルパ」の演奏を交えながら、「社会を作っているのは、一人ひとりの人間です。人と人が、お互いを大切に思い、他人の幸せを祈る気持ちが地球上にあふれることが大事なのです」など、心や生き方などについて講演されました。

講師の上之山さんは、小学校教師を経験後、星が美しい南米パラグアイで日本語教師として3年間生活。そこで「アルパ」と出会い、帰国後、「共に感じあうアルパ講演」の活動を続けておられます。

当日は、アルパ演奏「コンドルは飛んでゆく」や朗読「アンダルシアのつばさ屋さん」などを披露しながら、学校心理士として子どもたちと接した経験談や海外での体験を披露。アルパの懐かしい音色を聴かせながら「いろいろな人がおり、そしてみんなが丸く繋がって地球ができています」など優しく来場者に語りかける姿が印象的でした。

## 人権バスツアー(社員研修)に参加して

平成28年6月30日(木)、社員21名らが参加して、京都市北区にある人権資料展示施設「ツラッティ千本」を見学する社員研修会に参加しました。

「ツラッティ」とは、「連れあって」という意味の京都弁から名づけられたそうです。

ツラッティ千本では、事務局長(学芸員)の本郷さんから、地域の歴史的経過や住宅改善運動の取り組み、地元住民による新しいまちづくりなど多くのことを教わりました。

その中で、「明治以前は一定の産業基盤があり生活は安定していた様子がかげえる。その後、明治4年の解放令は、賤称を廃止したが、同時に、従来の公役とそれに伴う権利はく奪され、世の中のデフレの中で、貧乏化が進行していった」といった話などを興味深くお聞きしました。

このほか、龍安寺に立ち寄り有名な石庭を見学。石庭作りまつわるお話を地元ボランティアガイドさんから聞きするなど有意義な一日でした。



## 常務理事に中小路さん 理事に五十島さん

平成28年度第2回臨時社員総会が8月8日に開催され、高槻市人権まちづくり協会の新しい常務理事に中小路栄作さんが選任されました。

同氏は、元高槻市職員で、財務部長などを歴任したあと、社団法人高槻市シルバー人材センター理事長や都市開発株式会社取締役社長などにも就任されておられます。

また、5月26日に開催された第1回社員総会において、新たな理事として、三島人権擁護委員協議会高槻地区委員会会長の五十島順子さんが選任されました。

## 人権まちづくり協会の ホームページができました

より多くの情報発信を目的に、このほど、人権まちづくり協会のホームページを立ち上げました。従来はブログ形式で、講演会情報などをお届けしていましたが、ホームページの完成により、より見やすく読みやすいものへと生まれ変わりました。



今後は、講演会のお知らせや地域での取り組みなどをできるだけ早くお知らせするようにします。皆さんも一度、「高槻市人権まちづくり協会」にクリックをお願いします。

## 人権啓発作品を募集

平成28年度人権週間記念啓発作品（絵画・作文・標語）を募集しています。

応募された作品は、部門ごとに審査を行い、12月9日（金）10日（土）に開催する「人権を考える市民のつどい」で表彰や入選作品の展示などを行います。人権や平和をテーマにした未発表作品で各部門一人1点。



昨年の絵画の部最優秀作品▲

### 募集作品

- ・標語 長さは自由
- ・絵画 手書き（画用紙四つ切サイズ）  
パソコン（A2サイズ以下）
- ・作文 400字詰め原稿用紙で4枚以内（読書感想文を含む）

**応募資格** 市内在住又は通勤・通学・通園する人

**締め切り** 10月7日（金）までに必着

**応募方法** 作品名・名前・連絡先等を記入の上、郵送または持参で

**応募先** 〒569-0067  
高槻市桃園町1-1  
エムビル201  
一般社団法人  
高槻市人権まちづくり協会  
電話 674-7878  
FAX 674-7877

## 27年度決算を承認

5月26日に開催された平成28年度第1回社員総会において、当まちづくり協会の平成27年度収支決算や事業報告が全員賛成で承認されました。

当協会は、平成20年に発足し、翌21年度に一般社団法人となり、市民目線での人権啓発事業のより一層の充実を図るため、各中学校区単位会を中心とした「人権草の根活動」を推進しています。平成28年3月末現在の会員数は1,787名（内正会員34名）。

27年度も、平和展や人権週間記念事業、人権啓発のための講師派遣事業など各分野にわたって市の委託を受け啓発事業を行っています。

## 生地高芳 切り絵展

平成27年度発行の「あくていふ62号」から表紙を飾っている切り絵の作者、生地高芳さんの「わがまちたかつき切り絵紀行展」が、7月20日～25日まで高槻センター街にあるギャラリー「自由空間」で開催された。

会場には、少し懐かしい高槻の町並みの風景など29点が展示され、訪れた皆さんは、精巧な線が織りなす繊細な切り絵の世界に堪能しておられました。



作者の生地高芳さん▲

知  
つ  
て  
お  
き  
たい  
こ  
ん  
な  
マ  
ー  
ク

耳マーク



聞こえが不自由な聴覚障がい者を示すマークです。

耳が聞こえない、聞こえにくいといった聴覚障がい者の方は、見た目には障害が分からないために、誤解されたり、不利益なことになったりするなど、社会生活上の不安が少なくありません。

このマークを提示された場合は、相手が「聞こえない」ことを理解して、手で合図する、大きな声でハッキリ話す、筆談方法をとる、などコミュニケーションの方法に配慮しましょう。

高槻市人権まちづくり協会では、今年も高槻市の委託を受け、各分野の講師をお招きし、様々な人権について学ぶ「平成28年度人権連続講座」を開催します。参加は自由で1回だけでも構いません。興味がある、ちょっと聞いてみたい、など気軽にご参加ください。

**会場** クロスパル高槻(総合市民交流センター)  
7階 第6会議室

**時間** いずれも午後2時から4時ごろまで

**無料**

当日先着順  
各100名

手話通訳  
要約筆記  
あり

日時	講師	テーマ	講演内容など
9/30 金	Silent Voice 代表 尾中 友哉 さん 	きこえないからみえる 世界がある	聴覚障害者の両親を持ち、聴覚障害者が夢を持ち、活躍できる社会づくりに奮闘する。聞こえないからみえる世界とは……。
10/7 金	京都大学 医学博士 和泉 眞藏 さん 	医者の僕にハンセン病が 教えてくれたこと	ハンセン病隔離政策。問題点を強く主張し、入園者による国家賠償請求訴訟では、原告側の証人に。医師とはなにか。医療とは何か。患者への人間愛あふれる内容です。
10/14 金	遺品整理士 米山 智 さん 	孤立死防止のために ～遺品整理の現場から～	孤立死された人の家の遺品整理の現場から見てくる人の生き方や家族のありようなど、他人事ではないお話が聞けるのでは。
10/21 金	こどもソーシャル ワークセンター代表 幸重 忠孝 さん 	ひとりじゃないよ ～子どもの貧困を考える～	こどもたちを一人ぼっちにさせない地域づくりに第一線で活躍されている。現代社会に見るこどもの貧困とは……。
10/28 金	穀雨企画室 代表 渡辺 毅 さん 	同和問題を鏡として 人権を考える	同和って何?そんな世代が増えている。現代の同和問題から考える人権課題などをやさしく学べる機会です。

## 編集後記

6月4日に開催された人権講演会「心の豊かさを求めて」トーク&コンサートに参加し、講師の上之山幸代さんの絵本「アンダルシアのつばさ屋さん」と出会った。この絵本のお話は、子どもたちにつばさを与え育み成長していく姿を描く。

私は、その絵本の語りに引き込まれながら、ある高齢の女性の顔が頭に浮かんだ。女性は車いすに座った膝の上に折り紙で作った小さな「鳥」をいっぱい持っておられた。「つばさがあれば自由に行きたいところへ飛んで行けるからね」と目を輝かせながら、ちょっと恥ずかしそうに話された姿に、夢と希望を持つことのすばらしさと感動をもらった。

## 人権を考える市民のつどい

### 清水 健さん招き講演会

(キャスター／「112日間のママ」著者)

**日時** 2016年12月10日(土)  
午後2時～4時

**会場** 市生涯学習センター  
2階 多目的ホール

**定員** 先着300人  
※費用は無料

